

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/08/29～2019/10/02)

1. 勉学の状況

当初の予定では4つの授業を取る予定でしたが、現地に着いてから周りの人に3つでも手一杯になる、200番台の授業は難しい、などといった話を聞いたので3つに減らした上、取る授業も大きく変更しました。最終的に取ることになったのは、Introduction to International Studies (IS100) , Introduction to Justice (JS100) , Issues in World History (HIST116) です。3つの授業とも1週間に2日あり、各1時間15分の授業ですが、ちょうどすべて火曜日と木曜日なので、私は週2日しか授業がありません。最初の授業は8時半に始まり、最後は14:15に終わります。

IS100の授業ではこれまでに、Global Forces, Interactions, Tensions, States、Intergovernmental Organizations、Civil Societyについて学びました。馴染みのある内容である上、教授がスライドを使いながらテーマごとに区切って話をしてくれるのである程度理解できますが、完璧に理解するには教科書を使って予習復習をする必要があると感じています。

JS100の授業は基礎知識があまり無い上、スライドも無いので、ディクテーションのように頑張って聞き取ってノートを取ろうとするのですが、なかなか厳しいです。ただ、教授がノートテイクのボランティアを募集してUR-Courses (千葉大でいう moodle) にノートを共有してくれるそうなのでそれを頼りにしたいと思います。講義の半分はYouTubeの動画を見る事が多く、そこでカナダ国内で起きている人種差別の実態などを知ることが出来てとても興味深いです。

HIST116の授業は、もともと取りたかった Sociology の授業を、私が間違えてサスカトゥーンで行われている授業を登録してしまっていて、その代わりに急遽取ることになったものです。この授業は基本的に教授がスライドを使って世界の様々な地域の歴史を説明するというスタイルで、教授はゆっくり丁寧に話してくれるのでほとんど内容は理解できます。ただ、隔週で木曜日にディスカッションが行われ、とにかくそれが私にとってきついです。ディスカッションがある日には、教科書の指定ページを読んでそれに関する質問や自分の意見をまとめて提出しなければなりません。9月19日に最初のディスカッションがあったのですが、ディスカッション中は速い英語が飛び交うため私はすべて聞き取れない上、日本語でも意見を述べるのが難しいトピックに対し、全く自分の意見が英語でまとめられずディスカッションに参加出来ませんでした。ただ、とにかく教授が優しく良い人で、そんな私の様子に気付いてくださったのか声をかけてくださり、ディスカッションの内容を噛み砕いて説明してくださりました。今後授業に付いていけないか不安だったので、早速 UR-Courses を使って教授にコンタクトを取りました。すると、ひとつひとつ丁寧に相談に乗ってくださり、今後なんとか頑張ってみようと思えました。

また、日本語授業を週1で見学しています。元々外国人への日本語教育に興味があったのと、英語を話す機会を増やすため日本語授業を受講している生徒と会話出来たらと思ったからです。実際見学してみると、日本人でも説明出来ない言葉の使い分けや外国人向けの独特な用語を使ってとても勉強になりました。授業後には数名の生徒と話が出来、やはり日本文化に興味を持って色々日本について質問してくれたの

で嬉しかったです。

先ほど述べたように、週2日しか授業日がないので9月中は勉強面ではかなり暇でしたが、10月には Mid Term の試験や課題提出があるので気を引き締めて学習に取り組みたいと思います。

2. 生活の状況

・寮について

私は大学内の寮の6人部屋に入寮しました。部屋は個別で、大きなキッチンがひとつ、バストイレが3つ付いています。去年リニューアルされたばかりの寮で、とても綺麗な上、クラスルームには外に出ずに5分ほどで行けます。ルームメイトはカナダ人4人、中国人のESLの生徒1人です。基本食事は自炊ですが、最初は食材はもちろんキッチン用品が何も無く、大学主催のイベントにて無料で提供される食事をとるだけで、よくお腹を空かせていました。今では生活にだいぶ慣れ、キッチン用品もある程度そろい、スーパーへの行き方もマスターしました。

・街の様子、環境について

レジャイナで車を持っていない人の主な交通手段はバスです。レジャイナ大学の学生は無料で乗ることが出来るし、大学にいくつもバス停があるので便利ですが、土日になると本数が少なく、夜遅くは運行していないこともあるので気をつけなければいけません。また、現地の人は何も無いと言いますが、私は盛っていると思います。モールがいくつかあり、飲食店が多く建ち並んでいるので生活に困ることはないと感じます。あととにかく自然が豊かです。大学に隣接する Waskana Lake はとても綺麗で散歩すると気持ちがいいです。大学内でもウサギやリスを見ることが出来ます。先日（9月29日）は初雪が降りました。先週までは20℃近くあったのに、一気に寒くなり驚きました。本格的な寒さは12月、1月にやってくるそうで、-20、30℃は当たり前だそうです。すでに冬用のコートやブーツ、手袋は購入して準備してありますが、こちらの寒さが想像できず少し怖いです。

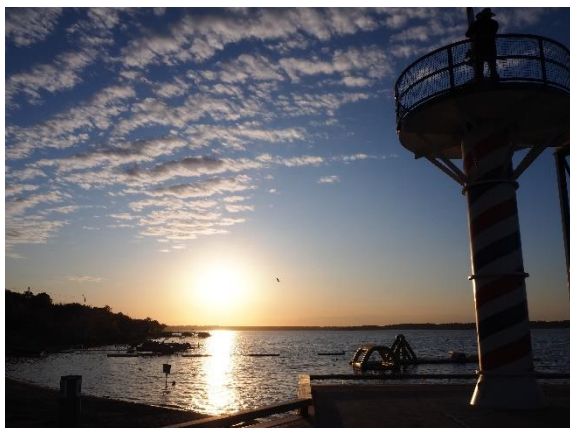


大学そばの Waskana Lake

休日には大学の留学生支援課が主催する交換留学生のイベントに参加したり、車を持っている友人に他の日本人や韓国人の友人と一緒に車で様々なところへ連れて行っていただいたりと、良いリフレッシュができています。



留学生向けのイベントで訪れた PowWow 左の写真の左方に見える円形の観客席の内側で、カナダの先住民 FirstNations が衣装を着て踊りを競うイベント



週末に数名の友人と訪れた Regina Beach

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/10/02 ～ 2020/01/05)

1. 勉学の状況

10月から11月の初めまではMidtermのテストや課題に追われていました。基本的に授業は少なく暇な時間が多かったので余裕をもって取り掛かるようにはしていたのですが、日本語で行うより倍近く時間がかかってしまいました。留学当初に比べ英語を聞くことが苦じゃなくなり、講義中に長時間集中することができるようになりました。ただ、完璧に聞き取ってノートを取るということは難しいので、途中から授業を録音するようにしてテスト前に聞き直して穴を埋めるようにしました。授業中にすべて理解できていたらどんなに楽だろうと悔しい気持ちもありましたが、録音して聞き直すという取り組みはかなり役に立ったのでこれからも続けていきたいと思えます。

12月の最初の週で授業がすべて終わり、そこからFinalのテスト期間に入ったのですが、最後の方の授業でグループワークが何度かありました。まず、隔週でディスカッションがあったHistoryの授業ですが、最後に私のグループがディスカッションリーダーとなる番がやってきました。ディスカッションの日に向けて事前にグループで集まって担当を話し合い、私は教科書のあるトピックを要約し、当日はその部分を音読するという役割をしました。これまでのディスカッションでは全然発言できず、最後に皆の前で発表するというのはとても緊張しましたが、現地の学生に混ざってディスカッションリーダーという役割をなんとか果たせたので良い経験になりました。また、International Studiesの授業ではカナダの地球温暖化対策についてグループごとに考えて発表するというものがありました。積極的に発言しリーダーシップをとってどんどん進めてくれる学生が二人いたので、怖気づいてしまいあまり手も足も出ませんでした。なんとか付いていこうと前日の準備段階の集まりに参加したり自分なりに頑張りました。ただ、少し悔しさも残るので、難しいトピックに対しても意見を述べられるような英語力と言語というハンデがあっても物怖じせず自分の意見を伝えようとする努力が必要だと思いました。

Finalのテストの手ごたえはぼちぼちという感じです…テスト範囲は膨大で勉強時間も限られていたのでできる限りのことはしましたが、予習復習をもっと細目にやっておくべきだったと思えました。

2. 生活の状況

実は10月の初めに同じ千葉大からの留学生と別の棟の4人部屋へ移動してきました。理由は元の6人部屋のカナダ人たちが夜にパーティーを行ったり、部屋内で会ってもあまり会話がなく気まずくなってしまったからです。移動先は4人部屋といっても私たち日本人2人しかいなかった。共通の友達を部屋に呼んで一緒に料理をしたり話をしたり楽しく生活できました。この約3か月は日本人2人での生活でしたが、この報告書を書いている2、3日で同じ交換留学生の

スコットランド人とフランス人が残りの二部屋に入寮してきました。まだあまり話せてはいませんが、これから4人で楽しく生活していきたいと思います。

レジャイナはとても寒く、12月前半にはマイナス30℃を体感しました。とても寒かったですが、長時間外にいなければ全然大丈夫でした。また、私は大学内の寮に住んでいてクラスルームへも室内移動で行けるので、普段の授業の日はほとんど外に出る必要がないのでなんとかやっけていけると感じました。

レジャイナ大学では、Study Abroad Office が交換留学生に向けて開催するイベント、大学が全員に向けて開催するイベント、Housing Office が寮に住んでいる人たちに向けて開催するイベントなど、イベントが盛りだくさんなので、レジャイナ自体はあまりやることはありませんが、積極的にそうしたイベントに参加することであまり飽きずに生活できました。隣町のサスカトゥーンへの小旅行、ハロウィンパーティー、アイスホッケー観戦とスケート体験などたくさん思い出が出来ました。

11月前半にはFall Break という長めの休みがあり、私はバンクーバーへ4泊5日で旅行に行ってきました。また、Final テスト終了後の年末休みにはトロント7日間、ニューヨーク6日間旅行しました。こうした旅行も良いリフレッシュになりました。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/1/06 ～2020/04/24)

1. 勉学の状況

留学期間の後半となる冬学期は1月6日から始まりました。学期ごとに授業が変わるので1ヶ月ほど前から学部のアカデミックアドバイザーとメールでやり取りをして授業登録をしてもらいました。今期は Sociology、Anthropology、Psychology Social: Developmental, and Clinical Focus のすべて Introduction レベルの3つの授業を取りました。1週間のスケジュールは以下の通りで、前学期が火木しか授業がなく偏っていたのに対し、今学期はバランスの良い時間割になりました。今学期はどの授業も100人近くの大講義で、基本的に先生がスライドを使って講義する形でした。Sociology は授業とは別にセミナーというのが週1であり、少人数で最終提出物のエッセイに向けてエッセイの書き方を習ったり、エッセイの下書きを定期的に提出してTAにチェックしてもらいます。

前期に比べて英語に慣れてきたためか、授業中の集中力が長く続くようになり、長時間英語を聞くのも苦ではなく、教授の話を理解してノートを取ることが出来ることが増えたように思います。

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
9:30-10:20		SOC100 Seminar			
10:30-11:20	SOC100		SOC100		SOC100
11:30-12:45		ANTH100		ANTH100	
13:00-14:15	PSYC101		PSYC101		

また、今学期も日本語授業の見学をしました。前学期に日本語授業を見学したときに日本語教育への興味が深まり、日本人の先生とコンタクトを取って週1回程度見学させてもらっていました。そこで日本語の会話練習をしたいという学生さんが連絡をくれて、日本語と英語を交えながら会話を楽しむことが出来ました。

2. 生活の状況

これまで4人部屋で2部屋空いていたところに、同じ交換留学のフランス、スコットランドからの学生が入寮してきました。最初は不安もありましたが、特にフランス出身の子がとてもフレンドリーで、ルームメイト4人皆で毎週末1食を一緒に料理をして食事をするのを提案してくれました。そのおかげで文化交流も出来、楽しい時間を過ごせました。

今学期は前学期に比べてイベントが少なく、新たに友達を作るのが難しかったです。留学生向けに開かれるイベントは主に今学期からの留学生向けで、前学期からいる私はほとんど参加しませんでした。大学主催のイベント、Housing Officeが開催する寮生向けのイベントも少ない印象でしたが、出来るだけ参加するようにしました。ただ、普段何もない日は授業を受け終わったら、部屋で課題をやるか食材を買いにスーパーへ行くかなどかなり生活がマンネリ化してしまいました。

世界的に流行しているコロナウイルスが原因で、帰国が1ヶ月早まりました。3月半ばに隣町（といっても車で2時間半）のサスカトゥーンで感染者が確認されたということで急遽大学が4日間休みになり、休み明けの金曜日からオンライン授業に移行するという決定がされました。レジャイナはコロナとは無縁だろうと呑気な気分でしたので、急激に事態が変わってしまって驚きました。これは日本に帰国してから改めて気付いたことなのですが、カナダ、少なくともレジャイナはコロナへの対応がとても早く、感染者が1人確認されただけで街のほとんどの店が閉まり、至る所で消毒が徹底されていたりしていました。この急激な状況の変化に恐怖心があったのと、今後帰国が難しくなる可能性を考慮して早期帰国を決めました。帰国しても各授業で出される課題やテストをこなすことで単位を取得できるので安心でした。最後はこのような形になってしまい名残惜しい気持ちもありますが、この経験を経てこういった緊急事態に対する国の対応の違いを間近で見ることが出来て良かったと思います。

ここレジャイナでは様々なバックグラウンドを持つ人々に会うことが出来ました。一度きりの出会いだっただ人も多々いますが、様々な話を聞くことが出来、多くの移民・難民を受け入れているカナダならではの経験が出来ました。特にレジャイナは受け入れの基準が低いらしく、多くの移民・難民がいる一方、先住民への差別・偏見、経済格差など多くの問題を今なお抱える地域であることも学びました。また、日本から離れたことで逆に世界から見た日本について考えることが出来ました。この留学を通して成長出来たかは定かではありませんが、多くのことを吸収し良い経験が出来ました。この経験を今後に生かしていきたいです。

この留学を支えてくださった先生方、両親、友人など多くの人に感謝しています。



木の枝に霜が降りていてきれい
でした。気温は低いですが、晴れ
の日が多く降雪量は少ないです。



ルームメイト4人での食事



帰国前に韓国人の友人と、大学近
くの日本・韓国料理屋さんに行き
ました。